

2014
Disclosure
ディスクロージャー

医信の現況

平成25年度(第55期)



(神戸メリケンパーク)



目次

ごあいさつ	1
経営理念・経営方針	2
医師信用組合としての連携	2
総代会	3
理事会・監事会およびその他の活動状況	4
地区別総代一覧	6
組織・役員	7
組合員	8
営業地域・店舗・職員	8
平成25年度の経営環境・事業概況	9
主要な経営指標の推移	9
法令等遵守体制について	10
リスク管理体制について	10
報酬体系について	11
中小企業の経営の改善及び 地域の活性化のための取組状況	12
苦情処理措置及び紛争解決措置の概要	13
業務内容のご紹介	14
貸借対照表	16
損益計算書	19
剰余金処分計算書	20
財務諸表の適正性及び内部監査の有効性	20
会計監査人の監査	20
経営指標	21
貸出金等の分類	25
自己資本の充実の状況等について	26
兵庫県医療信用組合のあゆみ	32
索引	33

ごあいさつ

組合員のみなさまには、平素より格別のご愛顧お引き立てを賜りまして心より厚く御礼申し上げます。

このたび、当組合の平成25年度（第55期）の決算状況をまとめましたので、ご理解を深めていただく資料としてご高覧賜われればと存じます。

当組合は昭和35年3月、兵庫県医師会、兵庫県歯科医師会、兵庫県薬剤師会を母体とし、医療・医薬に従事されているみなさま方の経済的地位の向上と繁栄を図ることをその使命として設立された業域信用組合でございます。協同組織金融機関として、相互扶助の理念を念頭に組合員のみなさまの幅広いニーズを反映させた経営を事業の基本方針としております。

さて、平成25年度の世界の金融経済情勢を顧みますと、高い成長率を維持してきた中国などの新興国に景気減速感の広がりがある一方、先進国を中心とした世界的な金融緩和や政策対応により、アメリカ経済の緩やかな回復や欧州景気の持ち直しなど底堅さも見られました。

わが国の経済を見ますと、当年度は金融政策や財政政策などの効果により、家計や企業マインドが改善し、内需を中心とした景気回復の動きが広がりました。平成26年度は消費税の増税による駆け込み需要の反動減が想定されますが、企業収益の増加による設備投資や雇用・所得環境の改善など経済の好循環により、デフレからの脱却に向けた着実な進展が期待されるところです。

当組合の経営に影響を与える、金融資本市場の動向を見てまいりますと、長期市場金利である10年物国債利回りは、今年3月末に0.640%となるなど、日銀の金融緩和策と継続的な国債買入れ策を背景に、年間を通し低水準で推移しました。また、株式市場は円安の進行と内需の拡大による景気回復期待から、日経平均株価は昨年12月に16,000円台まで上昇しましたが、3月期末には、14,000円台まで下落するなど、上値の重たい展開が続いております。

当組合の業績はこのような状況のもと、預金積金は相続預金の流出などの要因もあり、期末残高で356百万円減少し67,682百万円（前期比 ▲0.52%）となりました。一方、貸出金は減少に歯止めがかかり、期末残高は50百万円増加し10,991百万円（前期比 +0.45%）となりました。

収益面では、業務純益で276百万円（前期比 ▲34百万円）を確保しました。新本店竣工による減価償却費の増加などの要因もあり、減益となりましたものの、資金運用におけるリスク管理の強化とポートフォリオの見直しを行い安定的な収益確保に努めて参りました。その結果、経常利益は254百万円（前期比 ▲54百万円）、当期純利益は178百万円（前期比 ▲45百万円）となりました。

また、経営の健全性の指標となる自己資本比率も20.23%（前期比 +0.51%）となり、引き続き国内基準（4.00%）を大きく上回ることとなりました。

第56期は、本店新築移転後2年目となり、新生「兵庫県医療信用組合」の礎を築く年度と位置付けております。更なる飛躍に向け、経営の健全性・安定性を維持しつつ、組合員のみなさまのご期待・ご信頼にお応えしていけるよう役職員一同一層の努力を重ねて参りたいと存じます。

引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成26年7月

理事長 竹政順三郎

経営理念・経営方針

□経営理念

当組合は、兵庫県医師会、兵庫県歯科医師会、兵庫県薬剤師会を設立母体とする協同組織金融機関として相互扶助の理念を念頭におき、堅実経営に努めるとともに業域信用組合としての特性を活かし、きめ細かなサービスの提供を通じ、医療関係に従事する組合員の地位の向上と医療業界の繁栄を図ることを目的とする。

□経営方針

1. 業域の信用組合として信頼され、組合員のみならずとともに歩む専門金融機関を目指す。
2. 安定的に収益を確保し、経営基盤の強化と自己資本の充実を図る。
3. 信用組合の社会的責任を強く認識し、法令等を遵守する。
4. 経営に関わる様々なリスクを把握し、体制の整備に努める。
5. 金融環境の変化に対応し、職員にとって働きがいのある職場を創造する。

医師信用組合としての連携

全国の155信用組合（平成26年3月31日現在）のうち、業域信用組合は27組合です。

業域信用組合とは、各都道府県ごとに事務所を有する同業者を組合員として組織されたものです。様々な業種のものがありますが、その中で医師信用組合は全国に19組合あり、「全国医師信用組合連絡協議会」を組織し、毎年1回「総会」を開催して、各組合相互間の連絡およびその他重要な問題を協議しております。

また、定例の総会時および中間時点において常勤役職員による事務会議も開催致しております。

全国医師信用組合一覧（平成26年3月31日現在）

（単位：百万円・人）

組合名	設立年月日	預金残高	常勤役員数
神奈川県	昭25.2.27	111,805	57
大阪府	27.12.22	73,517	30
福岡県	29.8.23	56,026	16
鹿児島県	34.6.30	30,145	9
熊本県	34.12.20	16,748	6
兵庫県	35.3.19	67,682	50
佐賀県	35.4.26	30,488	13
愛知県	38.4.6	71,118	23
埼玉県	38.6.6	61,442	11
長崎県	38.11.8	43,612	9

組合名	設立年月日	預金残高	常勤役員数
和歌山県	昭39.4.10	21,288	9
石川県	39.7.9	26,157	11
富山県	40.7.1	27,753	7
岐阜県	41.1.31	30,434	7
福井県	42.3.28	16,243	8
静岡県	43.7.22	56,219	12
岩手県	46.4.24	28,759	10
群馬県	46.11.30	20,486	5
山形県	48.5.10	8,811	4

総代会

1. 総代会の仕組み

信用組合は、組合員の相互扶助の精神を基本理念に、金融活動を通じて経済的地位の向上を図ることを目的とした協同組合組織の金融機関です。信用組合には、組合員の総意により組合の意思を決定する機関である「総会」が設けられており、組合員は出資口数に関係なく、一人一票の議決権及び選挙権を持ち、総会を通じて信用組合の経営等に参加することができます。

しかし、当組合では、組合員が4,624名（平成26年3月末）と多く、総会の開催が困難なため、中小企業等協同組合法及び定款の定めるところにより「総代会」を設置しています。

総代会は、総会と同様に組合員一人ひとりの意思が信用組合の経営に反映されるよう、組合員の中から適正な手続により選挙された総代により運営され、組合員の総意を適正に反映し、充実した審議を確保しています。また、総代会は当組合の最高意思決定機関であり、決算や事業活動の報告が行われるとともに、剰余金処分、事業計画の承認、定款変更、理事・監事の選任など、当組合の重要事項に関する審議、決議が行われます。

総代は、組合員の代表として、総代会を通じて組合員の信用組合に対する意見や要望を信用組合経営に反映させる重要な役割を担っています。

2. 総代の選出方法、任期、定数

(1) 総代の選出方法

総代は「定款」および「総代選挙規約」の定めるところにより、兵庫県内の13の選挙区に総代定数を定め各選挙区ごとに公平に選挙を行い選出されます。

(2) 総代の任期、定数

総代の任期は3年であり、また総代の定数は100人以上110人以内となっています。地区別の定数は、地区の組合員数と総組合員数の按分比により算出しています。

(3) 去る平成26年2月に総代選挙を実施し、新たに110名の総代が選出されました。

3. 総代会の議事内容

平成26年6月19日開催の第55期通常総代会において、次の事項が付議され、それぞれ原案通り承認可決されました。

(1) 報告事項

第55期事業報告および計算書類等報告の件

(2) 決議事項

第1号議案 第55期剰余金処分案承認の件

第2号議案 平成26年度事業計画および収支予算案承認の件

第3号議案 理事15名選挙の件

第4号議案 監事1名選挙の件

第5号議案 「役員退職給与金規定」改定の件

第6号議案 退任役員に対する退職給与金贈呈の件

第7号議案 組合員除名処分の件

理事会・監事会およびその他の活動状況

1. 理事会

年月日	会議名	議案
H25.4.22	第1回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件 3. 平成25年度経営計画策定の件 4. 5ヵ年事業計画策定の件 5. 平成25年度有価証券の運用方針策定の件 6. 平成25年内部監査計画の件 7. 「経費予算規程」改定の件
H25.5.27	第2回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件 3. 平成24年度計算書類等承認の件 4. 第54期通常総代会招集の件 5. 職員夏季賞与金支給の件 6. 「有価証券減損処理規程」改定の件 7. 「介護・福祉事業ローン」取扱開始の件
H25.6.20	第3回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件
H25.7.22	第4回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件
H25.9.24	第5回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件 3. 「内部監査規程」等の改定の件 4. 「法令等遵守規程」等の改定の件 5. 「反社会的勢力対応管理規程」等の改定の件 6. 「顧客保護等管理規程」および関連規程等の改定の件 7. 「与信取引に関する顧客説明規程」等の改定および規則への変更の件 8. 「交通事故団体障害保険規程」の改定および規則への変更の件
H25.10.24	第6回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件
H25.11.25	第7回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件 3. 平成25年度「年末賞与」支給の件 4. 「災害補償規程」の改定および「給与規程」の一部改定の件 5. 「マイカーローン（勤務医専用）」取扱開始の件
H25.12.19	第8回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件 3. コーポレートマーク更改の件 4. 「創業者ローン」取扱開始の件
H26.1.27	第9回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件 3. 総代選挙実施の件
H26.2.24	第10回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件 3. 平成27年度初任給の件 4. 「経営者保証への対応方針」制定、及び「クレジットポリシー」一部改定の件 5. 姫路支店の店舗移転及び当局届出の件
H26.3.24	第11回理事会	1. 組合員新規加入・脱退審議の件 2. 借入申込審議の件 3. 平成26年度「コンプライアンス・プログラム」計画の件

2. 監事会

年月日	会議名	議案および報告事項
H25.4.22	第1回監事会	1. 監事監査概要報告書の作成について 2. 平成24年度計算書類等の受領について 3. 月例監査報告（4月分）について 4. 会計監査人の監査実施状況等について 5. 出資総口数・出資総額の登記用証明書発行について
H25.5.23	第2回監事会	1. 会計監査人の監査報告聴取 2. 会計監査人の監査の相当性について 3. 第54期事業年度会計監査人の監査報告書受領について
H25.5.27	第3回監事会	1. 監事監査報告書の作成について 2. 第54期通常総代会における監事監査報告について 3. 会計監査人の再任について 4. 期末監査及び月例監査報告（5月分）について
H25.7.22	第4回監事会	1. 月例監査報告（6、7月分）について 2. 会計監査人との監査契約書締結及び監査計画について
H25.9.24	第5回監事会	1. 監事会規程、監事監査基準、監事監査実施要領の改定について 2. 月例監査報告（8、9月分）について 3. 本年度の営業店臨店監査の実施について 4. 会計監査人の監査計画について
H25.11.25	第6回監事会	1. 月例監査報告（10、11月分）について 2. 会計監査人の監査実施状況について
H26.2.24	第7回監事会	1. 監事監査報告の通知期限の合意について 2. 月例監査報告（12、1、2月分）について 3. 会計監査人の監査実施状況について
H26.3.24	第8回監事会	1. 平成26年度監事監査計画等の決定について 2. 平成25年度監事監査結果の集計整理について 3. 平成25年度期末監査日程等について 4. 月例監査報告（3月分）について 5. 会計監査人の監査実施状況等について

3. その他の活動状況

年月日	内 容
H25.6.17	総合的なヒアリング（財務省近畿財務局 神戸財務事務所）
H25.7.26	
H25.10.25	トップヒアリング（財務省近畿財務局 神戸財務事務所）
H25.11.9	全国医師信用組合連絡協議会・事務会議（於 福井県）
H26.2.14	近畿地区医師信用組合連絡協議会（於 大阪府）
H26.3.9	全国医師信用組合事務会議（於 福井県）
H26.3.12～14	サポート監査（全国信用組合監査機構）

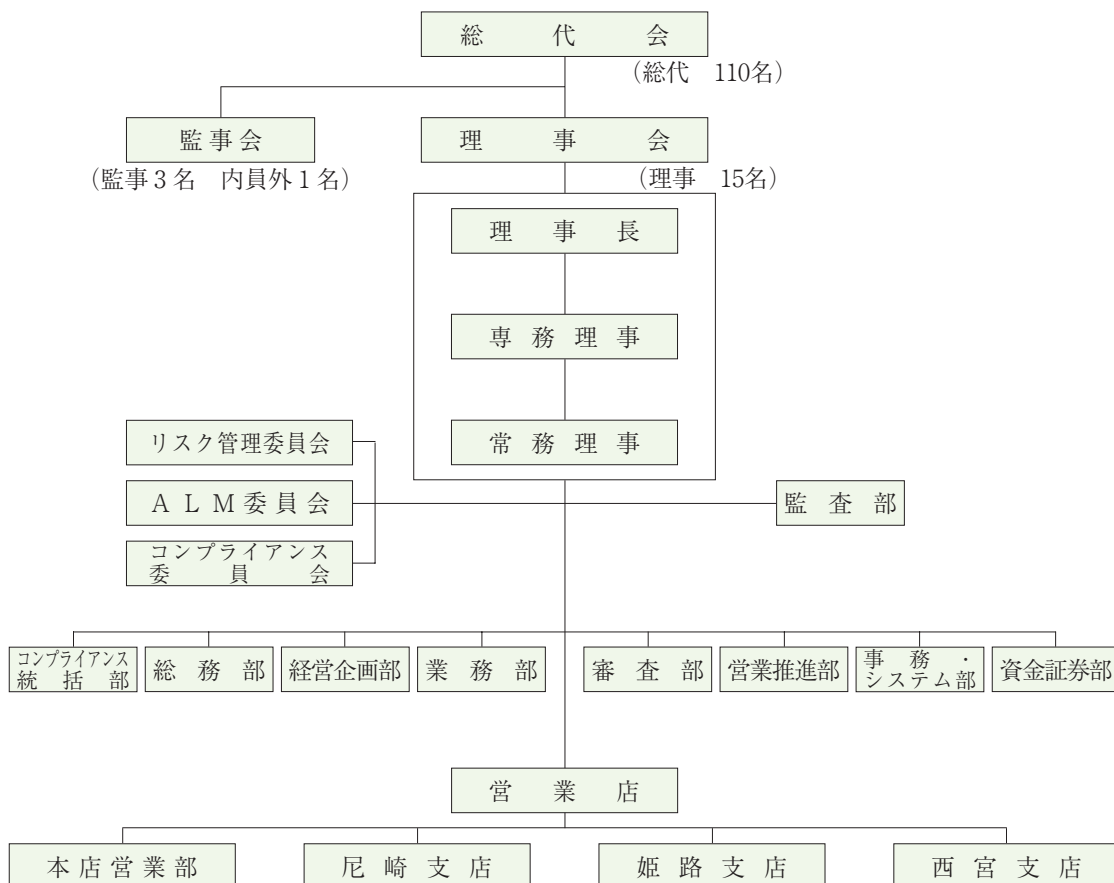
地区別総代一覧

(敬称略)

地区名	総 代 氏 名							
尼 崎	(尼崎市)	西村 亮一	榎林 親教	高原 周治	金澤 豊純	武田 俊彦		
		岡井 良男	白川 博史	大隈 義彦	島田 泰明	武居 勝信		
		黒田 佳治	橋本 創	村瀬 徹哉	鈴木 克司	明石 恭治		
		東 文造						
北 摂	(伊丹市)	小山 隆	小澤 孝好	(川西市)	北川 武志			
	(宝塚市)	山崎 之嗣	蓮尾 春輝					
南 摂	(西宮市)	竹政順三郎	菊池 英彰	濱岡 佳明	柴田 始宏	井上 晃一		
		藤堂 勝巳	池田 清	杵本 欣也	西本 洋二	児嶋 茂男		
		伊賀 俊行	大江与喜子	勝部 芳樹				
	(芦屋市)	富永 周作	鈴木 紀元					
神 戸 東	(東灘区)	川島 龍一	岡野 安雅	西尾 輝光	梶川 洋司	政田 義徳		
		河原 啓						
	(灘 区)	岡田 幸也	本庄 昭	川島 吉永	渡辺 志伸			
	(中央区)	置塩 隆	西田 芳矢	恵美裕一郎	岡田 実	林 省治		
		米田 豊						
神 戸 西	(兵庫区)	蓮池 堯明	島 正彦	由井 雄一				
	(長田区)	大西 則男	荻野 文章	久次米健市	上月 清司			
	(須磨区)	大石 康男	加地 隆彦	長谷川 修	村上 眞			
	(北 区)	武田 好弘	高原 哲夫					
	(垂水区)	岡田弘三郎	近藤 七郎	藤原 克昌				
	(西 区)	常深隼太郎	井上 壽夫	浅野 孝治				
東 播	(明石市)	姉崎 赳夫	日下 孝明	原井 克彦	伊賀 文計			
	(加古川市)	釜江 省五	(加古郡)	河合 勝				
	(高砂市)	山名 克典						
北 播	(三木市)	中堀 秀雄	神澤 正三					
西 播	(相生市)	魚橋 武司	(宍粟市)	藤多 和彦				
	(赤穂市)	石川 和夫	(揖保郡)	富岡 治彦				
姫 路	(姫路市)	藤森 春樹	瀧谷 泰博	泉 昭	大田 研治	石川 誠		
		井野 隆弘	長久 謹三	高木明一郎	段 武夫	倉橋 正孝		
		井上 圭介	空地 顕一	寺田 忠之				
淡 路	(淡路市)	栗田 哲司						
丹波・但馬	(三田市)	坂東 義清	(篠山市)	山鳥 嘉彦				
兵庫県歯科医師会	(全県区)	黒木 信博	上住 和也	河原 悟	楠本 浩正	伊賀 文保		
		鄭 相哲	赤松 正広	清瀬 隆司				
兵庫県薬剤師会	(全県区)	東 和夫	田中 京子					

(注) 総代の任期は、3年(平成26年4月25日～平成29年4月24日)です。

組織・役員



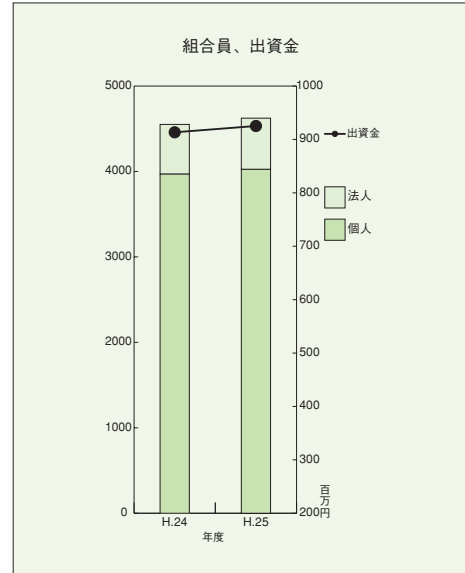
役 職	氏 名	診療科目	地 区
理 事 長	竹 政 順三郎	外・消・内科	西宮市
専 務 理 事	藤 本 弘 志	—	北 区
常 務 理 事	福 永 一 郎	—	加古川市
理 事	榎 林 親 教	内 科	尼崎市
〃	藤 原 克 昌	内・循環器科	垂水区
〃	東 和 夫	薬 剤 師	北 区
〃	日 下 孝 明	内・胃・小・放科	明石市
〃	鈴 木 紀 元	小 児 科	芦屋市
〃	本 庄 昭	内・循環器科	灘 区
〃	小 澤 孝 好	眼 科	伊丹市
〃	坂 東 義 清	内・外科	三田市
〃	宮 山 研 一	歯 科	尼崎市
〃	魚 橋 武 司	精神・内科	相生市
〃	由 井 雄 一	外 科	兵庫区
〃	岡 田 泰 長	泌 尿 器 科	長田区
監 事	黒 木 信 博	歯 科	尼崎市
〃	井 野 隆 弘	内・小児科	姫路市
員外常勤監事	山 田 敏 朗	—	北 区

(平成26年6月19日現在)

組 合 員

組合員数、出資金の推移

区 分	平成24年度末	平成25年度末
個 人	3,969	4,025
法 人	582	599
計 (人)	4,551	4,624
普通出資金 (千円)	913,394	925,228



営業地域・店舗・職員

営業地域

	地 区	地 区 名
1	尼 崎 地 区	尼崎市
2	北 摂 地 区	川西市 宝塚市 川辺郡 伊丹市
3	南 摂 地 区	西宮市 芦屋市
4	神 戸 東 地 区	東灘区 灘区 中央区
5	神 戸 西 地 区	兵庫区 北区 長田区 須磨区 垂水区 西区
6	東 播 地 区	明石市 高砂市 加古川市 加古郡
7	北 播 地 区	西脇市 三木市 小野市 多可郡 加東市 加西市
8	西 播 地 区	たつの市 相生市 赤穂市 赤穂郡 揖保郡 神崎郡 宍粟市 佐用郡
9	姫 路 地 区	姫路市
10	淡 路 地 区	洲本市 淡路市 南あわじ市
11	丹 波 地 区	豊岡市 美方郡 養父市 朝来市 篠山市 三田市 丹波市

店 舗

	〒	住 所	T E L	F A X	店舗内 ATM
本 店	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-17	(078)241-6050	(078)241-6051	—
本店営業部	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-17	(078)241-5201	(078)241-5210	1台
尼崎支店	661-0012	尼崎市南塚口町4-4-8 ハーティ21内	(06)6426-6288	(06)6428-2777	—
姫路支店	670-0932	姫路市下寺町43 姫路商工会議所新館内	(079)282-0177	(079)285-0393	—
西宮支店	662-0911	西宮市池田町13-2 西宮医療会館内	(0798)36-1010	(0798)33-1484	—

(平成26年6月30日現在)

職 員

	平成24年3月末	平成25年3月末	平成26年3月末
常 勤 役 職 員 数	51人	48人	50人
(うち職員数)	(48人)	(45人)	(47人)
(うち男子職員数)	(24人)	(25人)	(27人)
(うち女子職員数)	(24人)	(20人)	(20人)

平成25年度の経営環境・事業概況

経営環境

平成25年度は、金融政策や財政政策などの「アベノミクス効果」により、家計や企業マインドが改善し、内需を中心とした景気回復の動きが広がりました。一方、当組合の経営に影響を与える金融資本市場は、長期市場金利である10年物国債利回りが、今年3月末に0.640%となるなど年間を通し低水準で推移しました。また、株式市場は円安の進行と内需の拡大による景気回復期待から、日経平均株価は昨年12月に16,000円台まで上昇しましたが、3月期末には14,000円台まで下落するなど、上値の重たい展開が続いております。

資金調達

預金・積金残高は期中平均で前期比259百万円増加(+0.39%)したものの、相続預金の流出などの要因もあり、期末残高では前期比356百万円減少(▲0.52%)しました。

資金運用

貸出金残高は期中平均で前期比309百万円減少(▲2.82%)しましたが、下期に個人医師向けの設備資金など積極的に取り組みました結果、期末残高は前期比50百万円増加(+0.45%)しました。

また、有価証券は期中平均で前期比301百万円減少(▲0.65%)したものの、期末残高では前期比224百万円増加(+0.48%)となりました。

損益状況

経常収益は1,070百万円(前期比▲237百万円)、経常費用は816百万円(前期比▲183百万円)となったため、経常利益は前期比54百万円減少し254百万円となりました。また当期純利益は前期比45百万円減少し、178百万円となりました。

経営課題

平成26年度も引き続き、日銀の低金利政策などにより市場金利は低位で推移することが想定され、貸出金の競争激化など、収益環境は一層厳しくなるものと思われれます。

そのような環境下、当組合の更なる発展が、組合員の皆さまの経済的繁栄にも繋がるものと認識し、「貸出金の増強」、「業務の効率化」、及び「経費の削減」を重点項目として深化させて参ります。

中期的な展望の中では、経営母体である三師会(兵庫県医師会、兵庫県歯科医師会、兵庫県薬剤師会)との連携強化により、取引基盤の拡大に取り組んでまいります。

また、職員一人ひとりが、ルールや規則に沿って、自ら考え行動し、組合員の皆さまに真にお役に立てる組合の構築を目指します。

主要な経営指標の推移

(単位：百万円)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
経 常 収 益	1,500	1,229	1,440	1,307	1,070
経 常 利 益	297	341	294	308	254
当 期 純 利 益	201	231	199	223	178
預 金 積 金 残 高	64,276	65,007	67,079	68,039	67,682
貸 出 金 残 高	12,268	11,567	11,155	10,941	10,991
有 価 証 券 残 高	45,770	46,386	47,599	46,704	46,928
総 資 産 額	70,626	72,091	74,769	76,560	76,249
純 資 産 額	5,824	6,419	6,962	7,638	7,729
自己資本比率(単体)	17.49 %	17.85 %	19.41 %	19.72 %	20.23 %
出 資 総 額	867,327 千円	867,617 千円	914,574 千円	913,394 千円	925,228 千円
出 資 総 口 数	867,327 口	867,617 口	914,574 口	913,394 口	925,228 口
出 資 対 する 配 当 金	51,907 千円	44,362 千円	45,384 千円	45,668 千円	45,824 千円
職 員 数	48 人	49 人	48 人	45 人	47 人

(注) 残高計数は期末日現在のものです。

金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。(以下の各表における金額についても同様であります)

法令等遵守体制について

当組合では、コンプライアンスを経営の根幹をなす重要な課題として位置づけ、具体的な実践計画としてのコンプライアンス・プログラムを策定、役職員に徹底し、組合全体としてコンプライアンスの実践に努めております。その進捗状況については定期的に理事会にも報告、経営陣が率先垂範して取り組んでいます。

当組合のコンプライアンス基本方針

1. 当組合は、金融機関としての社会的責任と公共的使命を十分認識し、健全な業務運営を通じて、お客さま及び社会からの信頼・信用を確保する。
2. 当組合は、法令、諸規則、諸規程の遵守を通じて、社会的規範を逸脱することなく、誠実かつ公正に業務を遂行して、コンプライアンスの実践を図る。
3. 当組合は、その事業等の情報を適時かつ適切に開示して、広く社会とのコミュニケーションを図る。
4. 当組合は、従業員の人格、個性を尊重するとともに、安全かつ快適な環境を確保する。
5. 当組合は、社会の構成員であること及び地域社会の発展や公共の利益に深く関わる業務に携わっていることを認識し、「良き企業市民」として、自主的かつ積極的に社会貢献活動及び環境問題に取り組む。
6. 当組合は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは断固として対決する。

リスク管理体制について

当組合では、経営の健全性維持向上の観点より、リスク管理を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、各種リスク管理規程に則ってそのリスクの把握とコントロールを適切に行い、当組合の規模・特性に応じたリスク管理体制の強化に努めています。当組合のリスク管理体制は下記の通りです。

理 事 会	リスク管理態勢の構築、その他重要事項の審議、議決。リスク管理にかかる各種報告の聴取。
リ ス ク 管 理 委 員 会	統合的リスク管理の統括部署。各リスク所管部と連携し、組合全体のリスク管理に関する事項を一元的に管理・統括し、態勢整備、充実強化にあたる。
A L M 委 員 会	当組合の資産・負債を総合管理し、各業務部門を牽制することにより、運用戦略等の策定・実行の適切性を確保する。
経 営 企 画 部	リスク管理委員会事務局、信用リスク管理
コ ン プ ラ イ ア ン ス 統 括 部	法務リスク管理
業 務 部	市場リスク、流動性リスク、風評リスク管理
審 査 部	信用リスク管理
事 務 ・ シ ス テ ム 部	オペレーショナルリスク、事務リスク、システムリスク管理
監 査 部	リスク管理態勢にかかる内部監査の実施。

また各種リスク管理の概要については、25頁以降にも一部掲載しております。

報酬体系について

1. 対象役員

当組合では、理事全員及び監事全員（非常勤を含む）の報酬体系を開示しております。役員に対する報酬は、職務執行の対価として支払う「基本報酬」、在任期間中の職務執行及び特別功勞の対価として退任時に支払う「退職慰労金」で構成されております。

(1) 報酬体系の概要

① 基本報酬

非常勤を含む全役員の基本報酬につきましては、総代会において、理事全員及び監事全員それぞれの支払総額の最高限度額を決定しております。

そのうえで、各理事の基本報酬額につきましては役位に応じて当組合の理事会で決定しております。また、各監事の基本報酬額につきましては、監事の協議により決定しております。

② 退職慰労金

退職慰労金につきましては、在任期間中に每期引当金を計上し、退任時に総代会で承認を得た後、支払っております。

なお、当組合では、全役員に適用される退職慰労金の支払に関して、主として次の事項を規程で定めております。

a. 算出方法、b. 支払時期

(2) 平成25年度における役員に対する報酬

(単位：千円)

区 分	当期中の報酬支払額	総代会で定められた報酬限度額
理 事	64,008	65,000
監 事	7,938	10,000
合 計	71,946	75,000

注1. 上記は、協同組合による金融事業に関する法律施行規則第15条別紙様式第4号「附属明細書」における役員に対する報酬です。

注2. 支払人数は理事15名、監事3名です。

(3) その他

「協同組合による金融事業に関する法律施行規則第69条第1項第6号等の規定に基づき、報酬等に関する事項であって、信用協同組合等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定めるものを定める件」(平成24年3月29日付金融庁告示第23号)第3条第1項第3号及び第5号に該当する事項はありません。

2. 対象職員等

当組合における報酬体系の開示対象となる「対象職員等」は、当組合の職員で対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者のうち、当組合の業務及び財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

なお、平成25年度において、対象職員等に該当する者はいませんでした。

注1. 対象職員等には、期中に退職したものを含めております。

注2. 「同等額」とは、平成25年度に対象役員に支払った報酬等の平均額としております。

注3. 当組合の職員の給与、賞与及び退職金は当組合における「給与規程」及び「退職金規程」に基づき支払っております。

なお、当組合は、非営利・相互扶助の協同組合組織の金融機関であり、業績連動型の報酬体系を取り入れて自社の利益を上げることや株価を上げること動機付けされた報酬となっていないため、職員が過度なりスクテイクを引き起こす報酬体系はありません。

中小企業の経営の改善及び 地域の活性化のための取組状況

1. 中小企業の経営支援に対する取組方針

- (1) 当組合は、中小企業金融円滑化法の期限到来後も、お客さま一人ひとりの顔が見える対話を一番大切に、最も身近な頼れる相談相手として、お客さまの悩みを一緒に考え、これまで以上に適切な提案を行えるよう取り組みます。

2. 中小企業の経営支援に関する態勢整備

- (1) お客様からの貸付条件の変更等に関するお申込み・ご相談については、当組合の本店、各営業店に「ご返済等に関するご相談受付窓口」を設けております。
- (2) 当組合は、お客様からの貸付条件の変更等に関するお申込み・ご相談に対し、迅速かつ誠実な対応に努めるとともに、お客様とのこれまでの取引関係やお客様の理解、経験、資産の状況等に応じた適切かつ丁寧な説明に努めてまいります。また、お客様のライフサイクルにあわせた各種金融サービス情報の提供に努めてまいります。
- (3) 当組合は、お客様の実態を十分に踏まえ、迅速な対応に向け、貸付条件の変更等に関する情報を集約し、貸付条件の変更等の適否を審査すると共に、その内容を記録、保存いたします。
- (4) 当組合は、貸付条件の変更等を行ったのち経営改善努力を行っているお客様に対して、継続的なモニタリングを通し、経営相談や経営指導、及び経営改善支援に努めてまいります。

3. 中小企業の経営支援に関する取組状況

- (1) 当組合は、お客様から貸付けに係るお申込みやご相談について、医師系専門の金融機関としての特性を活かし、兵庫県下の医師会・歯科医師会・薬剤師会の医師等からの指導、アドバイスなども参考にしつつ、融資案件の組み立てや採り上げ判断等を行っております。また顧問税理士法人、顧問弁護士などの外部専門家と連携し、「創業支援」「事業計画作成支援」「事業承継」等のお客様のライフプランに応じた経営支援を行っております。
- (2) 当組合は、他の金融機関から借入を行っているお客様から貸付条件の変更等について、お申込み・ご相談があった場合には、お客様の申入れに基づき、情報共有の同意をいただいた上で守秘義務に留意しつつ、該当する他の金融機関、政府関係金融機関、信用保証協会、住宅金融支援機構、事業再生ADR解決事業者、地域経済活性化支援機構、中小企業再生支援協議会等との間で、相互に貸付条件の変更等に係る情報の確認を行うなど、緊密に連携し、対応に努めてまいります。

4. 地域活性化に関する取組状況

- (1) 当組合は、医療に従事される皆様への金融サービスの提供を通じて、医療施設や医療設備の整備・拡充など、地域医療や介護福祉事業の発展に寄与し、地域住民が安心して暮らせる環境作りに貢献してまいります。
 - ①新規開業をご検討されているお客様
 - ・新たに開業されるお客様に対しては、無担保で5,000万円までお借入が可能な「新規開業ローン（無担保型）」もご用意しております。
 - ②事業継承をご検討されているお客様
 - ・後継者への事業継承をご検討されているお客様に、「事業継承ローン」をご用意しております。また、後継者がいらっしゃらないお客様の事業継承ニーズにお応えするため、お客様の同意のもと、医師会等と連携し、ビジネス・マッチングも実施しております。
 - ③福祉・介護事業への進出をご検討されているお客様
 - ・医療に従事されているお客様が、新たに介護・福祉事業への展開をご検討されている場合、最大3億円までお借入が可能な「介護・福祉事業ローン」もご用意しております。

苦情処理措置及び紛争解決措置の概要

1. 苦情処理について

ご契約内容や商品に関する苦情等は、お取引のある営業店または総務部にお申し出ください。

【兵庫県医療信用組合 総務部】078-241-5201

受付日：月曜日～金曜日（祝日および組合の休業日は除く）

受付時間：9時～17時

なお、苦情等対応手続については、当組合ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.hyoishin.co.jp>

2. 紛争解決について

東京弁護士会 紛争解決センター（電話：03-3581-0031）、

第一東京弁護士会 仲裁センター（電話：03-3595-8588）、

第二東京弁護士会 仲裁センター（電話：03-3581-2249）

上記仲裁センター等で紛争の解決を図ることも可能ですので、ご利用を希望されるお客さまは、上記当組合総務部またはしんくみ相談所にお申し出ください。また、お客さまから各弁護士会に直接お申し出いただくことも可能です。なお、前記弁護士会の仲裁センター等は、東京都以外の各地のお客さまもご利用いただけます。

仲裁センター等では、東京以外の地域の方々からの申立について、当事者の希望を聞いたうえで、アクセスに便利な地域で手続を進める方法もあります。

① 移管調停：東京以外の弁護士会の仲裁センター等に事件を移管する。

② 現地調停：東京の弁護士会の斡旋人と東京以外の弁護士会の斡旋人が、弁護士会所在地と東京を結ぶテレビ会議システム等により、共同して解決に当たる。

※ 移管調停、現地調停は全国の弁護士会で実施している訳ではありませんのでご注意ください。

具体的内容は仲裁センター等にご照会ください。

【一般社団法人 全国信用組合中央協会 しんくみ相談所】

受付日：月曜日～金曜日（祝日および協会の休業日は除く）

受付時間：午前9時～午後5時

電話：03-3567-2456

業務内容のご紹介

預 金

種 類	預入期間	預入金額	特 色
当 座 預 金	自 由	1 円以上	小切手をご利用いただけ、代金のお支払いや資金の移動にご利用いただけます
普 通 預 金	自 由	1 円以上	ご自由に出し入れができ、家計簿代わりに使えるご預金です
総 合 口 座 (普通・定期)	自 由	1 円以上	受取る・使う・貯める・借りるが1冊の通帳でおこなえます 担保定期の90%、最高270万円までお借入が可能です
決 済 用 預 金 (無利息型普通預金)	自 由	1 円以上	無利息型普通預金として、預金の全額が預金保険によって保護されている預金です
通 知 預 金	7 日以上	1,000円以上	まとまった資金の短期運用に最適です お引出は2日前までにご連絡ください
納 税 準 備 預 金	自 由	1 円以上	納税を目的とする預金です お利息は無税扱いとなります
貯 蓄 預 金	自 由	10万円以上 30万円以上	自由に出し入れができ、自由金利型定期預金に連動した預金です
ス ー パ ー 定 期 預 金	1 ヶ月～3 年	100円以上	市場金利の動向等に応じて金利が決定されます お預け入れ時の利率は満期日まで変わりません
自 由 金 利 型 定 期 預 金	1 ヶ月～3 年	1,000万円以上	市場金利の動向等に応じて金利が決定される定期預金です お預け入れ時の利率は満期日まで変わりません
ドクタープラン	最長5年 (6ヶ月据置)	10万円以上 1,000万円未満	6ヶ月の据置期間経過後はご自由にお引き出しが可能です お利息は6ヶ月ごとの複利で計算します
定 期 積 金	6 ヶ月～5 年	1 回の掛金 100円以上	毎月一定の金額を積み立て頂くご預金で、目的に合わせて期間の設定ができます

融 資

種 類	お 使 い み ち	ご融資限度額	ご返済期間	担保・保証人など
介護・福祉事業 ロ ー ン	介護・福祉事業に関わる全ての資金にお使い頂けます	3 億円	25年以内	担 保：不動産 保証人：原則 1 名
医療事業ローン	医業に関わるすべての資金 診療所の移転、増改築、用地購入等にお使い頂けます	1 億円	25年以内	担 保：不動産 保証人：原則 1 名
医療サポートローン (医師向け)	運転資金、設備資金などの医療に関わる事業性資金にお使い頂けます	10百万円	5 年以内	担 保：不要 保証人：不要 (原則)
新規開業ローン	診療所等の開業に関するあらゆる資金にお使い頂けます	(不動産担保型) 1 億円	25年以内	担 保：不動産 保証人：原則 1 名
		(無担保型) 50百万円	15年以内	担 保：不要 保証人：原則 1 名
事業継承ローン	診療所等の事業継承に関するあらゆる資金にお使い頂けます	1 億円	25年以内	担 保：不動産 保証人：原則 1 名
医療機器購入 ロ ー ン	電子カルテ、レセコン、エコーその他の医療機器の購入資金にお使い頂けます	20百万円	5 年以内	担 保：不要 保証人：原則 1 名

種類	お 使 い み ち	ご融資限度額	ご返済期間	担保・保証人など
住 宅 ロ ー ン	ご自宅の購入、新築、増改築、自宅建築用地の購入、他行住宅ローンの借換えにお使い頂けます	1億円	35年以内	担 保：不動産 保証人：原則1名
教 育 ロ ー ン	教育に関するあらゆる資金にお使い頂けます（入学金、授業料、下宿資金等）	300万円	10年以内	担 保：不動産 保証人：原則1名
オ ー ト ロ ー ン	自家用車、往診車などの購入にお使い頂けます	100万円	5年以内	担 保：不要 保証人：原則1名
フ リ ー ロ ー ン （ 医 師 向 け ）	お使いみちはご自由です（事業性資金は除きます）	100万円	10年以内	担 保：不要 保証人：不要（原則）
フ リ ー ロ ー ン （ 歯 科 医 師 向 け ）	お使いみちはご自由です（事業性資金は除きます）	500万円	5年以内	担 保：不要 保証人：不要（原則）
フ リ ー ロ ー ン	お使いみちは原則ご自由です	500万円	5年以内	担 保：不要 保証人：原則1名

兵庫県医師会提携融資

種類	お 使 い み ち	ご融資限度額	ご返済期間	担保・保証人など
医 療 損 害 賠 償 特 別 融 資	医療事故にかかわる損害賠償支払資金（供託金等）にお使い頂けます	200万円	6ヶ月以内	担 保：不要 保証人：原則2名
医 師 会 入 会 金 ロ ー ン	県、郡、市、区の医師会入会金にお使い頂けます	500万円	5年以内	担 保：不要 保証人：原則1名

他行 ATM ご利用手数料の無料化開始について

- ・平成26年4月1日より、他行 ATM ご利用時の入出金手数料及び時間外手数料の無料化サービスを開始しました（振込手数料は除きます）。
- ・本サービスは、当組合の組合員の皆さまに限らせていただきます。
- ・詳しくは、各営業店までお問い合わせください。

貸借対照表

(単位：千円)

資 産	平成24年度	平成25年度	負債及び純資産	平成24年度	平成25年度
現金	196,209	208,035	預 金 積 金	68,039,582	67,682,704
預 け 金	16,945,863	16,438,346	当 座 預 金	705,421	472,015
有 価 証 券	46,704,192	46,928,728	普 通 預 金	17,965,904	16,907,805
国 債	8,786,090	9,816,390	貯 蓄 預 金	187,777	174,763
地 方 債	1,378,760	828,930	通 知 預 金	—	—
社 債	31,510,077	32,993,755	定 期 預 金	45,927,851	46,627,270
株 式	409,658	469,274	定 期 積 金	1,511,979	1,749,879
そ の 他 の 証 券	4,619,607	2,820,379	そ の 他 の 預 金	1,740,646	1,750,970
貸 出 金	10,941,131	10,991,404	そ の 他 負 債	294,628	263,157
割 引 手 形	—	—	未 決 済 為 替 借	7,685	11,837
手 形 貸 付	201,050	108,630	未 払 費 用	119,593	92,908
証 書 貸 付	10,734,179	10,874,372	給 付 補 て ん 備 金	1,959	2,589
当 座 貸 越	5,901	8,402	未 払 法 人 税 等	81,242	77,540
そ の 他 資 産	356,873	337,703	前 受 収 益	1,104	10,807
未 決 済 為 替 貸	—	20	払 戻 未 済 金	15,605	13,693
全 信 組 連 出 資 金	134,900	134,900	職 員 預 り 金	50,564	44,589
前 払 費 用	1,665	2,068	そ の 他 の 負 債	16,873	9,189
未 収 収 益	169,835	156,743	賞 与 引 当 金	16,606	16,752
そ の 他 の 資 産	50,471	43,971	役 員 賞 与 引 当 金	—	—
有 形 固 定 資 産	1,391,140	1,343,818	退 職 給 付 引 当 金	105,779	104,107
建 物	749,775	720,321	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	47,264	59,541
土 地	515,082	515,082	繰 延 税 金 負 債	414,354	391,035
建 設 仮 勘 定	12,474	—	債 務 保 証	3,843	2,835
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	113,807	108,414	負 債 の 部 合 計	68,922,057	68,520,134
無 形 固 定 資 産	29,863	30,659	(純 資 産 の 部)		
ソ フ ト ウ ェ ア	29,499	30,294	出 資 金	913,394	925,228
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	364	364	普 通 出 資 金	913,394	925,228
前 払 年 金 費 用	—	—	利 益 剰 余 金	5,460,953	5,593,460
繰 延 税 金 資 産	—	—	利 益 準 備 金	914,574	914,574
再 評 価 に 係 る 繰 延 税 金 資 産	—	—	そ の 他 利 益 剰 余 金	4,546,379	4,678,886
債 務 保 証 見 返	3,843	2,835	特 別 積 立 金	4,320,000	4,470,000
貸 倒 引 当 金	▲ 8,999	▲ 32,393	当 期 未 処 分 剰 余 金	226,379	208,886
(うち 個 別 貸 倒 引 当 金)	—	▲ 19,566	組 合 員 勘 定 合 計	6,374,347	6,518,688
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	1,263,712	1,210,315
			純 資 産 の 部 合 計	7,638,060	7,729,003
資 産 の 部 合 計	76,560,118	76,249,138	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	76,560,118	76,249,138

- (注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては事業年度末の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
3. デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
4. 有形固定資産の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。
- | | |
|-----|---------|
| 建物 | 15年～50年 |
| その他 | 3年～20年 |
5. 無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当組合内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。
6. 貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会・銀行等監査特別委員会報告第4号）に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類ごとに分類し過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき引当てしております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認められる額を引当てしております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を引当てしております。
全ての債権は、資産の自己査定基準に基づき、審査部の協力の下に、経営企画部が資産査定を実施しており、その査定結果により上記の引当てを行っております。
7. 賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
8. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、必要額を計上しております。
なお、当組合は、複数事業主（信用組合等）により設立された企業年金制度（総合型厚生年金基金）を採用しております。当該企業年金制度に関する事項は次のとおりです。
- (1) 制度全体の積立状況に関する事項（平成25年3月31日現在）
- | | |
|----------------|------------|
| 年金資産額 | 320,555百万円 |
| 年金財政計算上の給付債務の額 | 321,338百万円 |
| 差引額 | ▲ 782百万円 |
- (2) 制度全体に占める当組合の掛金拠出割合
（自平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）0.221%
- (3) 補足説明
上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高31,358百万円及び別途積立金30,576百万円であり、本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であり、当組合は当期の計算書類上、特別掛金14百万円を費用処理しております。
なお、特別掛金の額はあらかじめ定められた掛金率を掛金拠出時の標準給与の額に乗じることで算定されるため、上記(2)の割合は当組合の実際の負担割合とは一致しません。
9. 役員退職慰労引当金は、役員への退職給与金の支払いに備えるため、役員退職給与金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
10. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。
11. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額 一百万円
12. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債務総額 一百万円
13. 有形固定資産の減価償却累計額は130百万円であり、延滞債権はありません。
14. 貸出金のうち、破綻先債権額は19百万円、延滞債権はありません。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していること、その他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金であります。
15. 貸出金のうち、3ヶ月以上延滞債権はありません。
なお、3ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヶ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
16. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は138百万円であり、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄、その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権、及び3ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。
17. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は158百万円であり、なお、14. から17. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
18. 担保に提供している資産は、次のとおりであります。
- | | |
|------------|--------------|
| 担保提供している資産 | 現金 1百万円 |
| | 預け金 1,453百万円 |
- 上記担保は、主として為替業務等に係るものであります。
19. 出資1口当たりの純資産額 8,353円62銭
20. 金融商品の状況に関する事項
- (1) 金融商品に対する取組方針
当組合は、預金業務、融資業務および市場運用業務などの金融業務を行っております。
このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理（ALM）を実施しております。
- (2) 金融商品の内容及びそのリスク
当組合が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客さまに対する貸出金です。
また、有価証券は、主に債券及び株式であり、満期保有目的、純投資目的及び事業推進目的で保有しております。
これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。
一方、金融負債は主としてお客さまからの預金であり、流動性リスクに晒されております。
- (3) 金融商品に係るリスク管理体制
- ① 信用リスクの管理
当組合は、信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など信用管理に関する体制を整備し運営しております。
これらの与信管理は、各営業店のほか審査部により行われ、また、定期的に経営陣による理事会を開催し、審議・報告を行っております。さらに、与信管理の状況については、監査部がチェックしております。
有価証券の発行体の信用リスクに関しては、業務部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。
- ② 市場リスクの管理
- (i) 金利リスクの管理
当組合は、ALMによって金利の変動リスクを管理しております。
市場リスク管理規程、及びALM委員会運営規則において、リスク管理方法や手続等を明記しており、ALM委員会において決定されたALMに関する方針に基づき、理事会において実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っております。
- (ii) 価格変動リスクの管理
有価証券を含む市場運用商品の保有については、ALM委員会の方針に基づき、理事会の監督の下、資金運用規程に従って行われております。
業務部において、保有している株式にかかる市場環境や取引先の財務状況などをモニタリングを実施しております。これらの情報は業務部を通じ、理事会において定期的に報告されております。
- (iii) 市場リスクに係る定量的情報
当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、有価証券のうち「債券」、「預け金」、「貸出金」、及び「預金積金」であります。その他すべてのリスク変数が一定の場合、平成26年3月31日現在の金利が100ベース・ポイント(1.00%)上昇すれば、それぞれの時価は以下のとおり減少するものと考えられます。
- | | |
|---------------|---------|
| (単位：百万円) | |
| | 影響額 |
| (1) 有価証券のうち債券 | ▲ 2,904 |
| (2) 預け金 | ▲ 60 |
| (3) 貸出金 | ▲ 152 |
| (4) 預金積金 | 510 |
| 合計 | ▲ 2,607 |
- ③ 資金調達に係る流動性リスクの管理
当組合は、ALMを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。
- (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。
なお、金融商品のうち貸出金、預け金、預金積金については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を開示しております。

21. 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（注2）参照。また、重要性の乏しい科目については、記載を省略しております。

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 預け金（*1）	16,438	16,468	29
(2) 有価証券	46,928	46,868	▲60
満期保有目的の債券	800	739	▲60
その他有価証券	46,128	46,128	0
(3) 貸出金（*1）	10,991		
貸倒引当金（*2）	▲32		
	10,959	11,111	152
金融資産計	74,326	74,447	121
(1) 預金積金（*1）	67,682	67,720	38
金融負債計	67,682	67,720	38

（*1）預け金、貸出金、及び預金積金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」を記載しております。

（*2）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（注1）金融商品の時価等の算定方法

金融資産

(1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、市場金利で割り引くことで現在価値を算定し、当該現在価値を時価とみなしております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

(3) 貸出金

貸出金は、以下の①～③の合計額から、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除する方法により算定し、その算出結果を簡便な方法により算出した時価に代わる金額として記載しております。

① 破綻懸念先債権、実質破綻先債権及び破綻先債権等、将来キャッシュ・フローの見積りが困難な債権については、それぞれの貸借対照表の貸出金勘定に計上している額

② ①以外のうち、変動金利によるものは貸出金計上額

③ ①②以外のうち、固定金利によるものは貸出金の期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利（LIBOR、SWAP）で割り引いた価額

金融負債

(1) 預金積金

要求預金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿簿価）を時価とみなしております。定期預金の時価は、一定の金額帯および期間帯ごとに将来キャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を一種類の市場金利（LIBOR、SWAP）で割り引いた価額を時価とみなしております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

（単位：百万円）

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式（*1）	0
組合出資金（*2）	134
合 計	135

（*1）非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。

（*2）組合出資金（金信組連出資金等）のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしていません。

22. 有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりであります。これらには、「国債」、「地方債」、「社債」、「株式」、「その他の証券」が含まれております。

以下25.まで同様であります。

(1) 売買目的有価証券に区分した有価証券はありません。

(2) 満期保有目的の債券

【時価が貸借対照表計上額を超えるもの】

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
国 債	－百万円	－百万円	－百万円
地方債	－百万円	－百万円	－百万円
社 債	－百万円	－百万円	－百万円
その他	200百万円	200百万円	0百万円
小 計	200百万円	200百万円	0百万円

【時価が貸借対照表計上額を超えないもの】

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
国 債	－百万円	－百万円	－百万円
地方債	－百万円	－百万円	－百万円
社 債	－百万円	－百万円	－百万円
その他	600百万円	538百万円	▲61百万円
小 計	600百万円	538百万円	▲61百万円
合 計	800百万円	739百万円	▲60百万円

（注）時価は当事業年度末における市場価格等に基づいております。

(3) その他有価証券

【貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの】

	取得原価	貸借対照表計上額	評価差額
株 式	－百万円	－百万円	－百万円
債 券	40,780百万円	42,348百万円	1,568百万円
国 債	9,489百万円	9,816百万円	326百万円
地方債	702百万円	729百万円	27百万円
社 債	30,588百万円	31,802百万円	1,213百万円
その他	1,896百万円	2,020百万円	124百万円
小 計	42,676百万円	44,369百万円	1,692百万円

【貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの】

	取得原価	貸借対照表計上額	評価差額
株 式	494百万円	469百万円	▲24百万円
債 券	1,300百万円	1,290百万円	▲9百万円
国 債	－百万円	－百万円	－百万円
地方債	100百万円	99百万円	0百万円
社 債	1,200百万円	1,190百万円	▲9百万円
その他	－百万円	－百万円	－百万円
小 計	1,794百万円	1,759百万円	▲34百万円
合 計	44,470百万円	46,128百万円	1,657百万円

（注）貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

23. 当期中に売却した満期保有目的の債券はありません。

24. 当期中に売却したその他有価証券は次のとおりであります。

売却価額	売却益	売却損
3,146百万円	125百万円	－百万円

25. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の期間毎の償還予定額は次のとおりであります。

	償還予定額			
	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
債 券	2,598百万円	8,256百万円	29,038百万円	3,746百万円
国 債	503百万円	1,043百万円	5,086百万円	3,183百万円
地方債	－百万円	318百万円	510百万円	－百万円
社 債	2,094百万円	6,894百万円	23,441百万円	562百万円
その他	101百万円	1,153百万円	965百万円	600百万円
合 計	2,699百万円	9,410百万円	30,004百万円	4,346百万円

26. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

繰延税金資産	
貸与引当金損金算入限度額超過額	4百万円
退職給付引当金損金算入限度額超過額	28百万円
役員退職慰労引当金損金算入限度額超過額	16百万円
未払事業税	4百万円
その他	3百万円
繰延税金資産小計	56百万円
評価性引当額	－百万円
繰延税金資産合計	56百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	447百万円
繰延税金負債合計	447百万円
繰延税金負債の純額	391百万円

損益計算書

(単位：千円)

科 目	平成24年度	平成25年度	科 目	平成24年度	平成25年度
経 常 収 益	1,307,714	1,070,565	経 費	723,374	703,173
資 金 運 用 収 益	948,427	896,252	人 件 費	439,981	415,249
貸 出 金 利 息	195,474	177,054	物 件 費	264,050	276,530
預 け 金 利 息	36,023	28,744	税 金	19,342	11,393
有価証券利息配当金	711,533	685,057	そ の 他 経 常 費 用	30	23,411
その他の受入利息	5,396	5,396	貸倒引当金繰入額	－	23,394
役務取引等収益	26,762	27,333	株 式 等 売 却 損	－	－
受入為替手数料	12,126	12,033	株 式 等 償 却	－	－
その他の役務収益	14,636	15,300	そ の 他 の 経 常 費 用	30	17
その他業務収益	323,144	137,066	経 常 利 益	308,659	254,565
国債等債券売却益	316,124	125,639	特 別 利 益	－	－
国債等債券償還益	6,716	7,068	固 定 資 産 処 分 益	－	－
その他の業務収益	304	4,358	そ の 他 の 特 別 利 益	－	－
その他経常収益	9,379	9,913	特 別 損 失	3,886	603
貸倒引当金戻入益	7,600	－	固 定 資 産 処 分 損	3,886	603
償却債権取立益	354	41	そ の 他 の 特 別 損 失	－	－
株式等売却益	－	－	税 引 前 当 期 純 利 益	304,773	253,961
その他の経常収益	1,425	9,871	法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	82,981	79,356
経 常 費 用	999,055	816,000	法 人 税 等 調 整 額	▲1,693	▲3,569
資 金 調 達 費 用	98,651	78,667	法 人 税 等 合 計	81,288	75,787
預 金 利 息	96,578	76,233	当 期 純 利 益	223,484	178,174
給付補てん備金繰入額	1,805	2,198	繰 越 金	2,895	30,711
その他の支払利息	267	234	当 期 未 処 分 剰 余 金	226,379	208,886
役務取引等費用	6,890	7,285			
支払為替手数料	5,178	5,202			
その他の役務費用	1,712	2,083			
その他業務費用	170,108	3,463			
国債等債券売却損	170,108	－			
国債等債券償還損	－	3,463			
国債等債券償却	－	－			
その他の業務費用	－	－			

(注)

- 記載金額は、千円未満を切捨てて表示しております。
- 出資1口当たりの当期純利益 193円17銭

剰余金処分計算書

(単位：千円)


	平成 24 年 度	平成 25 年 度
当 期 未 処 分 剰 余 金	226,379	208,886
繰 越 金	2,895	30,711
当 期 純 利 益	223,484	178,174
計	226,379	208,886
上 記 処 分 額	195,668	176,478
利 益 準 備 金	—	10,654
特 別 積 立 金	150,000	120,000
出 資 に 対 す る 配 当 金	45,668	45,824
次 期 繰 越 金	30,711	32,408
出 資 配 当 率	年 5 %	年 5 %

財務諸表の適正性及び内部監査の有効性

私は当組合の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第55期の事業年度における貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書の適正性、及び同書類作成に係る内部監査の有効性を確認いたしました。

平成26年6月20日

兵庫県医療信用組合

理事長 竹 政 順 三 郎 

会計監査人の監査

当組合は、協同組合による金融事業に関する法律第5条の8第3項に規定する「特定信用組合」に該当しておりますので、「貸借対照表」「損益計算書」及び「剰余金処分計算書」につきましては、会計監査人である「新日本有限責任監査法人」の監査を受けており、適正である旨の監査報告を受理しています。

経営指標

総資産利益率

(単位：%)

区 分	平成24年度	平成25年度
総資産経常利益率	0.41	0.34
総資産当期純利益率	0.30	0.23

預貸率及び預証率

(単位：%)

区 分	平成24年度	平成25年度	
預 貸 率	期中平均残高	16.28	15.76
	期末残高	16.08	16.23
預 証 率	期中平均残高	68.54	67.83
	期末残高	68.64	69.33

資金利鞘等

(単位：%)

区 分	平成24年度	平成25年度
資金運用利回 (A)	1.30	1.23
資金調達原価率 (B)	1.20	1.13
資金利鞘 (A - B)	0.10	0.10

資金運用勘定・調達勘定の平均残高等

(単位：千円、%)

項 目	年 度	平均残高	利 息	利 回
資 金 運 用 勘 定	平成24年度	72,453,885	948,427	1.30
	平成25年度	72,512,044	896,252	1.23
うち貸出金	平成24年度	10,954,536	195,474	1.78
	平成25年度	10,645,365	177,054	1.66
うち預け金	平成24年度	15,252,182	36,023	0.23
	平成25年度	15,920,399	28,744	0.18
うち有価証券	平成24年度	46,112,265	711,533	1.54
	平成25年度	45,811,379	685,057	1.49
資 金 調 達 勘 定	平成24年度	67,323,783	98,651	0.14
	平成25年度	67,576,684	78,667	0.11
うち預金積金	平成24年度	67,270,333	98,384	0.14
	平成25年度	67,529,772	78,432	0.11
うちその他 (職員預り金)	平成24年度	53,450	267	0.50
	平成25年度	46,912	234	0.50

(注) 資金運用勘定は、無利息預け金の平均残高(平成24年度32百万円、平成25年度39百万円)を控除して表示しております。

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

		期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	平成24年度	16	8	—	16	8
	平成25年度	8	12	—	8	12
個別貸倒引当金	平成24年度	—	—	—	—	—
	平成25年度	—	19	—	—	19
合 計	平成24年度	16	8	—	16	8
	平成25年度	8	32	—	8	32

業務粗利益の推移・業務純益

(単位：千円、%)

	平成24年度	平成25年度
資 金 利 益	849,776	817,585
資金運用収益	948,427	896,252
資金調達費用	98,651	78,667
役 務 取 引 等 利 益	19,872	20,048
役務取引等収益	26,762	27,333
役務取引等費用	6,890	7,285
そ の 他 業 務 利 益	153,036	133,602
その他業務収益	323,144	137,066
(うち国債等債券売却益)	(316,124)	(125,639)
(「」償還益)	(6,716)	(7,068)
(金融派生商品収益)	(—)	(—)
(その他の業務収益)	(304)	(4,358)
その他業務費用	170,108	3,463
業 務 粗 利 益	1,022,684	971,236
資 金 運 用 勘 定 平 残	72,453,885	72,512,044
業 務 粗 利 益 率	1.41	1.33
業 務 純 益	311,325	276,513

役務取引の状況

(単位：千円)

科 目	平成24年度	平成25年度
役務取引等収益	26,762	27,333
受入為替手数料	12,126	12,033
その他受入手数料	10,407	10,857
その他の役務取引等収益	4,228	4,442
役務取引等費用	6,890	7,285
支払為替手数料	5,178	5,202
その他支払手数料	1,256	1,238
その他の役務取引等費用	456	844

経費の内訳

(単位：百万円)

項 目	平成24年度	平成25年度
人 件 費	439	415
報酬給料手当	350	338
退職給付費用	38	24
その他	50	51
物 件 費	264	276
事務費	91	90
固定資産費	59	48
事業費	22	18
人事厚生費	2	4
預金保険料	45	46
その他	41	68
税 金	19	11
経 費 合 計	723	703

受取利息及び支払利息の増減

(単位：千円)

項 目	平成24年度	平成25年度
受取利息の増減	▲ 82,955	▲ 52,175
支払利息の増減	▲ 47,436	▲ 19,984

内国為替取扱実績

(単位：百万円)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	件数	金額	件数	金額
送金・振込	20,910	28,293	21,099	29,114
他の金融機関向け 他の金融機関から	38,794	37,347	38,532	37,858

有価証券種類別平均残高

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金額	構成比	金額	構成比
国債	7,509	16.3	8,933	19.5
地方債	1,276	2.8	926	2.0
社債	31,662	68.6	31,713	69.2
株式	493	1.1	493	1.1
その他の証券	5,169	11.2	3,744	8.2
合計	46,112	100.0	45,811	100.0

預金種目別平均残高

(単位：百万円、%)

種 目	平成24年度		平成25年度	
	金額	構成比	金額	構成比
当座預金	675	1.0	637	0.9
普通預金	17,896	26.6	18,007	26.7
貯蓄預金	203	0.3	179	0.3
通知預金	—	—	—	—
定期預金	45,354	67.4	45,335	67.1
定期積金	1,423	2.1	1,717	2.5
その他	1,716	2.6	1,652	2.5
合計	67,270	100.0	67,529	100.0

預金者別預金残高

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金額	構成比	金額	構成比
個人	47,009	69.1	47,126	69.7
法人	21,020	30.9	20,545	30.3
金融機関	8	0	6	0
公金	0	0	3	0
合計	68,039	100.0	67,682	100.0

定期預金種類別残高

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金額	構成比	金額	構成比
固定金利定期預金	45,927	100.0	46,627	100.0
変動金利定期預金	—	—	—	—
その他の定期預金	—	—	—	—
合計	45,927	100.0	46,627	100.0

有価証券、金銭の信託等の取得原価または償却原価、時価及び評価損益

(単位：百万円)

項 目	取得原価または償却原価		時 価		評価損益	
	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度
有 価 証 券	44,973	45,270	46,527	46,868	1,554	1,597
金 銭 の 信 託	—	—	—	—	—	—
デリバティブ等 商 品	—	—	—	—	—	—

(注) 有価証券の「時価」は、当組合の「有価証券の時価会計に係る規則」にもとづき算出されております。

有価証券種類別残存期間別残高

(単位：百万円)

区 分	期間の定め のないもの	期間別の残高				
		1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超	
国 債	平成24年度	—	503	1,029	4,073	3,180
	平成25年度	—	503	1,043	5,086	3,183
地 方 債	平成24年度	—	—	—	1,378	—
	平成25年度	—	—	318	510	—
社 債	平成24年度	—	2,118	8,053	20,803	534
	平成25年度	—	2,094	6,894	23,441	562
株 式	平成24年度	409	—	—	—	—
	平成25年度	469	—	—	—	—
外 国 証 券	平成24年度	—	504	1,262	963	1,889
	平成25年度	—	101	1,153	965	600
その他の証券	平成24年度	—	—	—	—	—
	平成25年度	—	—	—	—	—
合 計	平成24年度	409	3,125	10,345	27,219	5,604
	平成25年度	469	2,699	9,410	30,004	4,346

有価証券の時価等情報

満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種 類	平成24年度			平成25年度		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—	—	—
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	200	200	0
	小計	—	—	—	200	200	0
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—	—	—
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	—	—	—	—	—	—
	その他	2,000	1,823	▲ 176	600	538	▲ 61
	小計	2,000	1,823	▲ 176	600	538	▲ 61
合 計		2,000	1,823	▲ 176	800	739	▲ 60

- (注) 1. 時価は、当事業年度末における市場価格等に基づいております。
 2. 「社債」には、公社公団債、事業債が含まれます。
 3. 上記の「その他」は、外国証券です。

その他有価証券

(単位：百万円)

	種 類	平成24年度			平成25年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差 額	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	—	—	—	—	—	—
	債券	39,926	38,189	1,736	42,348	40,780	1,568
	国債	8,786	8,416	369	9,816	9,489	326
	地方債	1,378	1,302	76	729	702	27
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	29,761	28,471	1,289	31,802	30,588	1,213
	その他	2,529	2,395	134	2,020	1,896	124
	小計	42,455	40,585	1,870	44,369	42,676	1,692
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	409	494	▲ 84	469	494	▲ 24
	債券	1,748	1,801	▲ 52	1,290	1,300	▲ 9
	国債	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	99	100	0
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	1,748	1,801	▲ 52	1,190	1,200	▲ 9
	その他	89	92	▲ 3	—	—	—
小計	2,248	2,388	▲ 139	1,759	1,794	▲ 34	
合 計		44,704	42,973	1,731	46,128	44,470	1,657

- (注) 1. 貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づいております。
 2. 「社債」には、公社公団債、事業債が含まれます。
 3. 上記の「その他」は、外国証券です。

貸出金種類別平均残高

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
手形貸付	126	1.1	142	1.3
証書貸付	10,820	98.8	10,495	98.6
当座貸越	7	0.1	7	0.1
合 計	10,954	100.0	10,645	100.0

貸出金使途別残高

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
運 転 資 金	2,453	22.4	2,115	19.2
設 備 資 金	8,487	77.6	8,875	80.8
(うち住宅ローン)	(3,845)	(35.1)	(3,754)	(34.1)
合 計	10,941	100.0	10,991	100.0

担保種類別貸出金残高及び債務保証見返額

(単位：百万円、%)

区 分	金 額	構 成 比	債務保証見返額	
当 組 合 預 金 積 金	平成24年度	294	2.7	—
	平成25年度	218	2.0	—
有 価 証 券	平成24年度	—	—	—
	平成25年度	—	—	—
動 産	平成24年度	—	—	—
	平成25年度	—	—	—
不 動 産	平成24年度	7,357	67.3	3
	平成25年度	7,317	66.6	2
そ の 他	平成24年度	138	1.3	—
	平成25年度	79	0.7	—
小 計	平成24年度	7,791	71.3	3
	平成25年度	7,615	69.3	2
信用保証協会・信用保険	平成24年度	58	0.5	—
	平成25年度	71	0.7	—
保 証	平成24年度	703	6.4	—
	平成25年度	553	5.0	—
信 用	平成24年度	2,388	21.8	—
	平成25年度	2,750	25.0	—
合 計	平成24年度	10,941	100.0	3
	平成25年度	10,991	100.0	2

貸出金金利区別残高

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
固定金利貸出	3,690	33.7	3,614	32.9
変動金利貸出	7,250	66.3	7,377	67.1
合 計	10,941	100.0	10,991	100.0

貸出金業種別残高

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
医療・福祉	4,205	38.4	3,683	33.5
そ の 他	6,735	61.6	7,307	66.5
合 計	10,941	100.0	10,991	100.0

代理貸付残高の内訳

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
全国信用協同 組合連合会	—	—	—	—
株式会社 日本政策金融公庫	—	—	—	—
独立行政法人 福祉医療機構	19	100.0	14	100.0
合 計	19	100.0	14	100.0

貸出金等の分類

リスク管理債権及び同債権に対する保全額

(単位：百万円、%)

区 分		残高 (A)	担保・保証額 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 ((B)+(C))/A
破綻先債権	平成24年度	—	—	—	—
	平成25年度	19	—	19	100.0
延滞債権	平成24年度	—	—	—	—
	平成25年度	—	—	—	—
3ヶ月以上延滞債権	平成24年度	—	—	—	—
	平成25年度	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	平成24年度	170	99	1	59.0
	平成25年度	138	95	5	72.4
合 計	平成24年度	170	99	1	59.0
	平成25年度	158	95	24	75.3

- (注) 1. 「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号の、イ. 会社更生法又は、金融機関等の更生手続の特例等に関する法律の規定による更正手続開始の申立てがあった債務者、ロ. 民事再生法の規定による更生手続開始の申立てがあった債務者、ハ. 破産法の規定による破産手続開始の申立てがあった債務者、ニ. 会社法の規定による特別清算開始の申立てがあった債務者、ホ. 手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、等に対する貸出金です。
2. 「延滞債権」とは、上記1. 及び債務者の経営再建又は支援（以下「経営再建等」という。）を図ることを目的として利息の支払いを猶予したものの以外の未収利息不計上貸出金です。
3. 「3ヶ月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している貸出金（上記1. 及び2. を除く）です。
4. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金（上記1. ～3. を除く）です。
5. 「担保・保証額(B)」は、自己査定に基づく担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額です。
6. 「貸倒引当金(C)」は、リスク管理債権区分の各項目の貸出金に対して引当てた金額を記載しており、リスク管理債権以外の貸出金等に対する貸倒引当金は含まれておりません。
7. 「保全率((B)+(C))/A」はリスク管理債権ごとの残高に対し、「担保・保証」、及び「貸倒引当金」を設定している割合です。
8. これらの開示額は、担保処分による回収見込額、保証による回収が可能と認められる額や既に引当てている個別貸倒引当金を控除する前の金額であり、全てが損失となるものではありません。

金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額

(単位：百万円、%)

区 分		債権額 (A)	担保・保証等 (B)	貸倒引当金 (C)	保全額 (D)=(B)+(C)	保全率 (D)/A	貸倒引当金引当率 (C)/((A)-(B))
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	平成24年度	—	—	—	—	—	—
	平成25年度	19	—	19	19	100.0	100.0
危険債権	平成24年度	—	—	—	—	—	—
	平成25年度	—	—	—	—	—	—
要管理債権	平成24年度	170	99	1	100	59.0	2.1
	平成25年度	138	95	5	100	72.3	12.1
不良債権計	平成24年度	170	99	1	100	59.0	2.1
	平成25年度	158	95	24	120	75.7	39.3
正常債権	平成24年度	10,777					
	平成25年度	10,837					
合 計	平成24年度	10,948					
	平成25年度	10,996					

- (注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更正手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3ヶ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権です。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。
5. 「担保・保証等(B)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
6. 「貸倒引当金(C)」は、「正常債権」に対する一般貸倒引当金を控除した貸倒引当金です。
7. 金額は決算後の計数です。

自己資本の充実の状況等について

I. 自己資本の構成に関する開示事項

1. 自己資本の構成

(単位：百万円)

項 目	平成24年度
(自 己 資 本)	
出 資 金	913
非累積的永久優先出資	—
優先出資申込証拠金	—
資 本 準 備 金	—
そ の 他 資 本 剰 余 金	—
利 益 準 備 金	914
特 別 積 立 金	4,470
繰越金(当期末残高)	30
そ の 他	—
自己優先出資(▲)	—
自己優先出資申込証拠金	—
その他有価証券の評価差損	—
営業権相当額(▲)	—
のれん相当額(▲)	—
企業結合により計上される無形固定資産相当額(▲)	—
証券化取引により増加した自己資本に相当する額(▲)	—
基本的項目(A)	6,328
土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	—
一般貸倒引当金	8
負債性資本調達手段等	—
負債性資本調達手段	—
期限付劣後債務及び期限付優先出資	—
補完的項目不算入額(▲)	—
補完的項目(B)	8
自己資本総額(A)+(B)=(C)	6,337
他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額	—
負債性資本調達手段及びこれに準ずるもの	—
期限付劣後債務及び期限付優先出資並びにこれらに準ずるもの	—
非同時決済取引に係る控除額及び信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係る控除額	—
基本的項目からの控除分を除く、自己資本控除とされる証券化エクスポージャー及び信用補完機能を持つ1/0ストリップス(告示第223条を準用する場合を含む)	—
控除項目不算入額(▲)	—
控除項目計(D)	—
自己資本額(C)-(D)=(E)	6,337
(リスク・アセット等)	
資産(オン・バランス)項目	30,448
オフ・バランス取引等項目	3
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	1,678
リスク・アセット等計(F)	32,130
単体Tier1比率(A/F)	19.69%
単体自己資本比率(E/F)	19.72%

(単位：百万円)

項 目	平成25年度	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目(1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	6,472	
うち、出資金及び資本剰余金の額	925	
うち、利益剰余金の額	5,593	
うち、外部流出予定額(▲)	45	
うち、上記以外に該当するものの額	—	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	12	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	12	
うち、適格引当金コア資本算入額	—	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	6,485	
コア資本に係る調整項目(2)	—	
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	—	—
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	—	—
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	—	—
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—
信用協同組合連合会の対象普通出資等の額	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限り。)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限り。)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	—	—
自己資本		
自己資本の額((イ)-(ロ))(ハ)	6,485	
リスク・アセット等(3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	30,406	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	▲4,196	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	21	
うち、繰延税金資産	—	
うち、前払年金費用	—	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	▲4,218	
うち、上記以外に該当するものの額	—	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	1,648	
信用リスク・アセット調整額	—	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	32,055	
自己資本比率		
自己資本比率((ハ)/(ニ))	20.23%	

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「協同組合による金融事業に関する法律第六条第一項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第22号)」が平成25年3月8日に改正され、平成26年3月31日から改正後の告示が適用されたことから、平成24年度においては旧告示に基づく開示、平成25年度においては新告示に基づく開示を行っております。

なお、当組合は国内基準を採用しております。

II. 定量的な開示事項

1. 自己資本の充実度に関する事項

(単位：百万円)

	平成24年度		平成25年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額合計	30,452	1,218	30,406	1,216
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	30,452	1,218	34,603	1,384
(i) ソブリン向け	155	6	217	8
(ii) 金融機関向け	7,177	287	4,114	164
(iii) 法人等向け	13,587	543	14,020	560
(iv) 中小企業等・個人向け	371	14	348	13
(v) 抵当権付住宅ローン	374	14	429	17
(vi) 不動産取得等事業向け	900	36	900	36
(vii) 三月以上延滞等	—	—	—	—
(viii) 出資等	409	16	494	19
出資等のエクスポージャー	409	16	494	19
重要な出資のエクスポージャー	—	—	—	—
(ix) 他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通出資等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	—	—	4,218	168
(x) 信用協同組合連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	—	—	134	5
(xi) その他	7,476	299	9,723	388
②証券化エクスポージャー	—	—	—	—
③経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	21	0
④他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	—	—	▲4,218	▲168
⑤CVA リスク相当額を8%で除して得た額	—	—	—	—
⑥中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—
ロ. オペレーショナル・リスク	1,678	67	1,648	65
ハ. 単体総所要自己資本額 (イ+ロ)	32,130	1,285	32,055	1,282

- (注) 1. 所要自己資本の額=リスク・アセットの額×4%
2. 「エクスポージャー」とは、資産（派生商品取引によるものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。
3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、地方公共団体金融機構、我が国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門（当該国内においてソブリン扱いになっているもの）、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体、信用保証協会等のことです。
4. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことでです。
5. 「その他」とは、(i)～(x)に区分されないエクスポージャーです。具体的には貸出金、有形固定資産、無形固定資産、その他資産等が含まれます。
6. オペレーショナル・リスクは、当組合は、基礎的手法を採用しています。
<オペレーショナル・リスク（基礎的手法）の算定方法>
粗利益（直近3年間のうち正の値の合計額）×15%
直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数 ÷ 8%
7. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の分母の額×4%

2. 信用リスクに関する事項（証券化エクスポージャーを除く）

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

信用リスクとは、取引先の財務状況の悪化等により、当組合の資産の価値が減少ないし消失し、損失を受けるリスクのことを言い、信用リスクは当組合が管理すべき重要なリスクであると認識しています。

信用リスクの評価につきましては、当組合では、厳格な自己査定を実施しています。貸倒引当金は自己査定基準、償却引当基準に基づき、自己査定における債務者区分ごとに計算された貸倒実績率を基に算定するとともに、その結果については、監査法人の監査を受けるなど、適正な計上に努めています。

(2) 標準的手法が適用されるポートフォリオ

リスクウェイトの判定に使用する適格格付機関は、以下の5機関を採用しています。

Moody's、R & I、JCR、S & P、Fitch

なお、エクスポージャーの種類ごとに適格格付機関の使い分けは行っておりません。

(3) 信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高

(単位：百万円)

エクスポージャー区分 地域区分 業種区分 期間区分	信用リスクエクスポージャー期末残高									
			貸 出 金		債 券		デリバティブ 取 引		三月以上延滞エ クスポート	
	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度
国 内	51,505	53,491	10,944	10,993	40,561	42,498	—	—	—	—
国 外	3,996	2,411	—	—	3,996	2,411	—	—	—	—
地 域 別 合 計	55,501	55,902	10,944	10,993	44,557	44,909	—	—	—	—
製 造 業	9,410	10,543	—	—	9,410	10,543	—	—	—	—
農 業、林 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
漁 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	200	301	—	—	200	301	—	—	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	902	1,002	—	—	902	1,002	—	—	—	—
情報通信業	403	703	—	—	403	703	—	—	—	—
運輸業、郵便業	8,232	7,330	—	—	8,232	7,330	—	—	—	—
卸売業、小売業	2,710	3,210	—	177	2,710	3,210	—	—	—	—
金融業、保険業	10,504	8,227	1,000	1,000	9,504	7,227	—	—	—	—
不動産業	2,303	2,504	—	—	2,303	2,504	—	—	—	—
物品賃貸業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宿泊業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
飲食業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生活関連サービス業、娯楽業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
教育、学習支援業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医療、福祉	1,142	804	1,142	804	—	—	—	—	—	—
その他のサービス	3,062	2,878	3,062	2,878	—	—	—	—	—	19
その他の産業	249	821	249	821	—	—	—	—	—	—
国・地方公共団体等	12,123	13,250	1,235	1,165	10,888	12,085	—	—	—	—
個人	4,250	4,143	4,250	4,143	—	—	—	—	—	—
その他	3	2	3	2	—	—	—	—	—	—
業 種 別 合 計	55,501	55,902	10,944	10,993	44,557	44,909	—	—	—	19
1 年 以 下	15,540	12,967	8,523	7,936	7,017	5,031	—	—	—	—
1 年 超 3 年 以 下	5,319	4,719	484	892	4,834	3,827	—	—	—	—
3 年 超 5 年 以 下	4,658	4,593	641	351	4,017	4,242	—	—	—	—
5 年 超 7 年 以 下	7,721	10,011	266	1,131	7,454	8,880	—	—	—	—
7 年 超 10 年 以 下	17,923	19,305	758	367	17,164	18,938	—	—	—	—
10 年 超	4,335	4,279	266	291	4,068	3,988	—	—	—	—
期間の定めのないもの	—	19	—	19	—	—	—	—	—	—
その他	3	2	3	2	—	—	—	—	—	—
残 存 期 間 別 合 計	55,501	55,902	10,944	10,993	44,557	44,909	—	—	—	—

(注) 1. 当組合は、外国債券を保有しているため、国内と国外に区分しております。

2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している者に係るエクスポージャーのことです。

3. 上記の「その他」は、業務区分や期間区分に分類することが困難なエクスポージャーです。具体的には、貸出金の未収利息を計上しております。

4. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

(4) 業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の額等

(単位：百万円)

	個 別 貸 倒 引 当 金										貸出金償却	
	期首残高		当期増加額		当期減少額				期末残高			
					目的使用		その他					
	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度
その他のサービス	—	—	—	19	—	—	—	—	—	19	—	—
合 計	—	—	—	19	—	—	—	—	—	19	—	—

- (注) 1. 当組合は、国内の限定されたエリアにて事業活動を行っているため、「地域別」の区分は省略しております。
 2. その他のサービスは個人（事業性）が該当します。
 3. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

(5) リスク・ウェイト区分ごとのエクスポージャーの額等

(単位：百万円)

告示で定めるリスク・ウェイト区分 (%)	エクスポージャーの額			
	平成24年度		平成25年度	
	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し
0 %	—	11,816	—	11,783
10 %	—	752	—	1,373
20 %	10,223	18,179	9,136	17,660
35 %	—	1,070	—	1,237
50 %	16,053	—	17,568	—
75 %	—	561	—	523
100 %	3,393	12,869	2,509	13,023
150 %	—	—	—	—
250 %	—	—	—	—
1250 %	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—
合 計	29,671	45,250	29,214	45,602

- (注) 1. 格付は、適格格付機関が付与しているものに限りします。
 2. エクスポージャーは、信用リスク削減手法適用後のリスク・ウェイトに区分しています。
 3. コア資本に係る調整項目となったエクスポージャー（経過措置による不算入分を除く）、CVAリスクおよび中央精算期間関連エクスポージャーは含まれておりません。
 4. 「1250%」欄については、自己資本比率告示の規定により、平成24年度は資本控除した額、平成25年度はリスク・ウェイト1250%を適用したエクスポージャーの額を記載しております。

3. 信用リスク削減手法に関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

信用リスク削減手法とは、組合が抱えている信用リスクを軽減化するための措置を言い、具体的には、預金担保、有価証券担保、保証などが該当します。当組合では、融資の取り上げに際し、資金使途、返済原資、財務内容、事業環境、経営者の資質など、様々な角度から可否の判断をしています。審査の結果、担保又は保証が必要な場合には、お客様への十分な説明とご理解をいただき、ご契約においては適切な取扱いに努めています。

信用リスク削減手法として、適格担保として自組合預金積金、上場株式等があり「担保の種類および評価基準」・「保証の種類および評価基準」により、適切な事務取扱並びに適正な評価・管理を行っています。

また、お客様が期限の利益を失われた場合には、全ての与信取引の範囲において、預金相殺等をする場合がありますが、各種約定書等に基づき、法的に有効である旨確認のうえ、適切な取扱いに努めています。

(2) 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

ポートフォリオ	信用リスク削減手法	適格金融資産担保		保 証		クレジット・デリバティブ	
		平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー		326	274	90	—	—	—
	(i) ソブリン向け	—	—	—	—	—	—
	(ii) 金融機関向け	—	—	90	—	—	—
	(iii) 法人等向け	169	129	—	—	—	—
	(iv) 中小企業等・個人向け	55	45	—	—	—	—
	(v) 抵当権付住宅ローン	—	—	—	—	—	—
	(vi) 不動産取得等事業向け	—	—	—	—	—	—
	(vii) 三月以上延滞等	—	—	—	—	—	—
	(viii) 出資等	—	—	—	—	—	—
	出資等のエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
	重要な出資のエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
	(ix) 他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通出資等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
	(x) 信用協同組合連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	—	—	—	—	—	—
	(xi) その他	100	98	—	—	—	—

- (注) 1. 当組合は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。
2. 上記「保証」には、告示（平成18年金融庁告示第22号）第45条（信用保証協会、農業信用基金協会、漁業信用基金協会により保証されたエクスポージャー）、第46条（株式会社地域経済活性化支援機構等により保証されたエクスポージャー）を含みません。

4. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当事項はありません

5. 証券化エクスポージャーに関する事項

該当事項はありません

6. オペレーショナル・リスクに関する事項

- (1) リスク管理の方針及び手続の概要
オペレーショナル・リスクを「事務リスク、システムリスク、法務リスク、風評リスク」と定義しています。当組合は、オペレーショナル・リスクによって損失を被るリスクに備えた自己資本の確保が必要だと考えています。
- (2) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法
3年間の平均粗利益の15%であるとした「基礎的手法」を採用します。

7. 出資等エクスポージャーに関する事項

- (1) リスク管理の方針及び手続の概要
出資等又は株式エクスポージャーにあたるものは、上場株式、非上場株式、全国信用協同組合連合会への出資金が該当します。
そのうち、上場株式にかかるリスクの認識については時価評価及び VaR 並びに株価変動幅（10%）、によるリスク計測によって把握するとともに、運用状況に応じて ALM 委員会に諮り投資継続の是非を協議するなど、適切なリスク管理に努めています。取引にあたっては、当組合が定める、「資金運用規程」、「市場リスク管理規程」、「有価証券の運用方針」に基づいた厳格な運用・管理を行っています。非上場株式、出資金に関しても、適切に運用・管理を行っています。
なお、当該取引にかかる会計処理については、当組合が定める「有価証券の時価会計に係る規則」及び日本公認会計士協会の「金融商品会計に関する実務指針」に従った適正な処理を行っています。
- (2) 貸借対照表計上額及び時価等

(単位：百万円)

区 分	平成24年度		平成25年度	
	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価
上 場 株 式 等	409	409	468	468
非 上 場 株 式 等	135	135	135	135
合 計	544	544	604	604

(注) 出資等又は株式エクスポージャーにあたるものは、上場株式、非上場株式、全国信用協同組合連合会への出資金が該当します。

(3) 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度
売却益	—	—
売却損	—	—
償却	—	—

(注) 損益計算書における損益の額を記載しております。

(4) 貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度
評価損益	▲ 84	▲ 24

(注) 「貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、その他有価証券の評価損益です。

(5) 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度
評価損益	—	—

(注) 「貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、子会社株式及び関連会社の評価損益です。

8. 金利リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や、将来の収益性に対する影響を指しますが、当組合では、「資金運用規程」、「市場リスク管理規程」、「有価証券の運用方針」によりリスク管理を行っています。また、業務部が金利リスクのモニタリング・分析を行っています。

(2) 金利リスク算定手法の概要

金利リスク量算出は、以下の定義に基づいて算定しています。

① 計算方式：ラダー方式

② 金利ショック幅：保有期間1年、最低5年の観測期間で計測される金利変動1パーセント値と99パーセント値

③ コア預金

対象：流動性預金（当座、普通、貯蓄等）

算定方法：現残高の50%相当額

満期：5年以内（平均2.5年）

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度
金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益・経済価値の増減額	360	462

Ⅲ. 定性的な開示事項

1. 自己資本調達手段の概要

当組合の自己資本は、出資金及び利益剰余金により構成されております。なお、当組合の自己資本調達手段の概要は次のとおりです。

発行主体	兵庫県医療信用組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	925百万円

兵庫県医療信用組合のあゆみ

- S 35. 3 組合設立・新開地本通り藤田興業の3階で開設 組合員673名
西庵久楠氏が初代組合長に就任
- S 35. 8 医療金融公庫委託業務取扱開始
- S 36. 4 組合事務所を生田区楠町3丁目42番地2へ新築移転
- S 37. 1 神戸市公金受入れ事務取扱開始・株式払込事務取扱開始
- S 38. 1 兵庫県診療報酬支払基金の受入金融機関の指定を受ける
- S 39. 3 尼崎支店開設（尼崎市東難波町2-5-30）
- S 40. 6 姫路支店開設（姫路市東呉服町20）
- S 42. 10 安本和夫氏が二代目の組合長に就任
- S 44. 12 西宮支店開設（西宮市江上町3-40）
- S 47. 11 渡邊一九氏が三代目の組合長に就任
- S 49. 10 尼崎支店移転（尼崎市水堂町3-15-20）
- S 51. 12 姫路支店移転（姫路市本町85-7）
- S 54. 1 国民金融公庫の代理業務開始
- S 56. 3 旧本店ビル竣工
- S 59. 5 中田富士男氏が四代目の組合長に就任
- S 62. 5 信組共同センター加盟によるオンラインシステム取扱開始
- H 2. 3 創立30周年記念式典開催
- H 2. 11 田野良雄氏が五代目の組合長に就任
- H 5. 11 濱西壽三郎氏が六代目の組合長に就任
- H 8. 4 西宮支店移転（西宮市池田町13-2）
- H 11. 6 長谷川茂氏が七代目の組合長に就任
- H 14. 6 石戸力氏が八代目の組合長に就任
- H 16. 6 会計監査人・員外常勤監事の選任
- H 16. 8 ホームページ開設
- H 17. 6 橋本章男氏が九代目の組合長に就任
- H 20. 6 瀧谷泰博氏が十代目の組合長に就任
- H 21. 4 組合内ネットワークシステムの構築
- H 21. 9 創立50周年記念式典開催
- H 22. 6 竹政順三郎氏が十一代目の組合長に就任
- H 24. 3 「営業支援システム」稼働開始
- H 24. 11 本店ビル竣工
- H 25. 1 「医師系専用自己査定システム」稼働開始
- H 26. 2 「顧客属性管理システム」稼働開始
- H 26. 5 姫路支店移転（姫路市下寺町43 姫路商工会議所新館内）

索引

(各開示項目は、下記のページに記載しております。なお、※印は、「協同組合に
よる金融事業に関する法律施行規則」で規定されております法定開示項目です。)

項目	ページ	項目	ページ
ごあいさつ	1	41 代理貸付残高の内訳	24
〔概況・組織〕		〔有価証券に関する指標〕	
1 事業方針	2	42 商品有価証券の種類別平均残高 ※	該当なし
2 事業の組織 ※	7	43 預証率（期末・期中平均） ※	21
3 役員一覧 ※	7	44 有価証券の種類別平均残高 ※	22
4 店舗一覧 ※	8	45 有価証券種類別残存期間別残高 ※	22
5 自動機器設置状況	8	46 有価証券の評価 ※	22
6 地区一覧	8	47 有価証券の時価等情報	23
7 組合員数	8	〔経営管理体制に関する事項〕	
〔主要な事業内容〕		48 法令遵守の体制 ※	10
8 主要事業内容 ※	14～15	49 リスク管理体制 ※	10
〔業務に関する事項〕		50 苦情処理措置・紛争解決措置の内容 ※	13
9 事業概況 ※	9	〔財産の状況〕	
10 経常収益 ※	9	51 貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書 ※	16～20
11 業務純益	21	52 財務諸表の適正性及び内部監査の有効性	20
12 経常利益 ※	9	53 会計監査人による監査 ※	20
13 当期純利益 ※	9	54 リスク管理債権及び同債権に関する保全額 (1) 破綻先債権 (2) 延滞債権 ※ (3) 3ヶ月以上延滞債権 (4) 貸出条件緩和債権	25
14 出資総額、出資総口数 ※	9		
15 純資産額 ※	9		
16 総資産額 ※	9		
17 預金積金残高 ※	9	55 金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額 ※	25
18 貸出金残高 ※	9	56 貸倒引当金（期末残高・期中増減額） ※	21
19 有価証券残高 ※	9	〔自己資本比率規制に関する事項〕	
20 自己資本比率（単体） ※	9	57 自己資本の構成（自己資本比率明細） ※	26
21 出資配当金 ※	9	58 自己資本の充実度に関する事項 ※	27
22 職員数 ※	9	59 信用リスクに関する事項（証券 化エクスポージャーを除く） ※	28
〔主要業務に関する指標〕		60 信用リスク削減手法に関する事項 ※	29～30
23 業務粗利益および業務粗利益率 ※	21	61 派生商品取引及び長期決済期間取引の 取引相手のリスクに関する事項 ※	30
24 資金運用収支・役員取引等収支 およびその他業務収支 ※	21	62 証券化エクスポージャーに関する事項 ※	30
25 資金運用勘定・調達勘定の平均 残高等、利回り、資金利鞘 ※	21	63 オペレーショナル・リスクに関する事項 ※	30
26 受取利息、支払利息の増減 ※	22	64 出資等エクスポージャーに関する事項 ※	30
27 役員取引の状況	21	65 金利リスクに関する事項 ※	31
28 その他業務収益の内訳	21	66 自己資本調達手段の概要	31
29 経費の内訳	21	〔その他の業務〕	
30 総資産経常利益率 ※	21	67 内国為替取扱実績	22
31 総資産当期純利益率 ※	21	〔その他〕	
〔預金に関する指標〕		68 沿革・歩み	32
32 預金種目別平均残高 ※	22	69 総代会について	3
33 預金者別預金残高	22	70 理事会・監事会およびその他の 活動状況	4～5
34 定期預金種類別残高 ※	22		
〔貸出金等に関する指標〕		71 報酬体系について	11
35 貸出金種類別平均残高 ※	24	〔地域貢献に関する事項〕	
36 貸出金金利区分別残高 ※	24	72 中小企業の経営改善及び地域の 活性化のための取組状況 ※	12
37 担保種類別貸出金残高 及び債務保証見返額 ※	24		
38 貸出金用途別残高 ※	24		
39 貸出金業種別残高・構成比 ※	24		
40 預貸率（期末・期中平均） ※	21		



医療・医薬に関わるみなさまとともに
歩む専門金融機関です



本 店

神戸市中央区磯上通3丁目2番17号(〒651-0086)
TEL(078)241-5201 FAX(078)241-5210



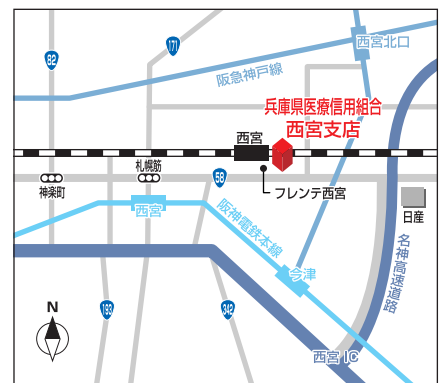
尼 崎 支 店

尼崎市南塚口町4丁目4番8号(〒661-0012)
ハーティ21 内
TEL(06)6426-6288 FAX(06)6428-2777



姫 路 支 店

姫路市下寺町43(〒670-0932)
姫路商工会議所 新館内
TEL(079)282-0177 FAX(079)285-0393



西 宮 支 店

西宮市池田町13番2号(〒662-0911)
西宮医療会館 内
TEL(0798)36-1010 FAX(0798)33-1484